



院庄小学校毛筆授業 心落ち着かせて筆に集中

12月9日 院庄小学校

院庄小学校3年生25人が延札翠松先生の指導を受ける毛筆授業。1学期は毛筆に親しみ、2学期は書き初め展に出展する作品「ひかり」の指導を受けてきました。子どもたちは、とめ・はね・はらいに注意しながら、一筆一筆に気持ちを込めて清書していきます。

細川璃久くんは「先生の授業は楽しいです。先生が分かりやすく教えてくれるので、上手に書けるようになったと思います」と話してくれました。



第35回津山市スポーツ少年団サッカー交歓会 ゴールめがけて大熱戦

12月4日 津山陸上競技場ほか

市内スポーツ少年団46チームが参加して開催されたサッカー交歓会。時折、冷たい雨が降る中、小学生約630人が熱戦を繰り広げました。

子どもたちは、日ごろの練習の成果を発揮してドリブルやパスなど巧みなプレーで相手のゴールを狙います。「上がれ! 上がれ!」「マークにつけ!」「打て~!」など、チームメイトや保護者の声援を受ける中、シュートが決まると、応援していた観客たちから歓声が上がり、会場中に響きました。

アイランド津山オープン

待ちに待った初滑り

12月10日 アイランド津山



県北唯一の屋外アイススケート場アイランド津山がオープンしました。今回初めて滑る人や、「去年はなんとか滑れたけど、今年もうまく滑れるかな」と不安気な人、自前のスケート靴を持って滑り慣れた人など、たくさんの家族連れやグループなどが、初滑りを楽しみました。颯爽と滑る人や友達と仲良く手をつないで滑る人たちなど、それぞれが氷の上を満喫している様子でした。

仲よし4人組で来場した武岡蓉香さん(弥生小4年生)は「スケートが好きで、今年も滑れる日を楽しみにしていました。今日は、1日中ずっと滑りたいので、お弁当も持ってきました」と笑顔で話してくれました。今シーズンは2月19日(日)まで開場しています。

生涯学習人材バンク制定記念講演会 身に付けた知識を生かして

12月11日 津山圏域雇用労働センター

市民の生涯学習へのニーズと、身に付けた知識や技能、経験を講師や指導者として地域で生かしたい人とを結ぶ生涯学習人材バンク。歴史郷土史研究家の長畑博さんを講師として、明治~昭和中期に功績を残した先人についての講演会を開催し、約60人が学びました。

製糸業を興した浮田家、博愛精神を実践した森本家の足跡を解説した後、浮田製糸工場跡など旧跡を巡りました。参加者は、講師の説明に熱心に聞き入っていました。



津山っ子こころのふれあいトーク 子どもの目線もあなどれない

12月10日 津山市総合福祉会館

津山っ子を守り育てる市民の会が、中学生との意見交換の場として開催している津山っ子こころのふれあいトーク。市内8校16人の中学生が日ごろ思っていることを発表しました。

テーマは、いじめや家族・関わりのある人たちへの感謝の気持ちなど身近なものから、TPP交渉参加問題など世界規模の問題までに及び、中学生から見た視点や思いを述べました。斬新な発想や、大人がハッと気付かされる子どもならではの切り口に、来場者は感心して聞いていました。

第29回津山第九演奏会 歓喜の歌を高らかに

12月4日 津山文化センター(山下)

師走の風物詩、津山第九演奏会が開かれ、ベートーヴェン作曲の交響曲第9番が会場に響き渡り、約800人の聴衆を魅了しました。

市民オーケストラ・津山交響楽団の演奏と、公募で集まった高校2年生から80歳までの80人による津山第九合唱団の大合唱。クライマックスでは4人のソリストと合唱団が「歓喜の歌」を力強く歌い上げました。演奏の終了と同時に感動に包まれた聴衆の中から「ブラボー」という声上がり、大きな拍手が送られました。



「先人のあゆみ」バスツアー ゆかりの地に思いをはせる

11月20日 市内各地

津山地域の発展に尽力した先人たちを紹介した『つやま・先人のあゆみ』に掲載されているゆかりの地を訪ねるバスツアー。明治の人材を育てた、医師・仁木永祐が開いた学問所「初山齋」跡(初保)など、市内8カ所を巡りました。

参加者の永禮信義さん(志戸部)は「津山の発展を支えた先人たちの偉業、深い郷土愛、死を恐れぬ勇気などに触れ、興奮と感謝を覚えました。とても充実した時を過ごすことができました」と感想を語ってくれました。